63 期生

３年生学年だより

豊中市立第五中学校　2017 年３月３日(金)　No.33

聞き取り学習・多目的室

２月 24 日(金)多目的室で３年生最後の聞き取り学習があり、豊中人権まちづくりセンターから酒井留美さん、重本洋輔さんに来ていただき、お話を聞かせていただきました。

差別には、いつ、どこで、どのように自分が出会うか分かりません。いざ目の前に直面した時に、差別と気付かなかったり、見逃したり、知らないうちに差別に加担してしまうこともあるかもしれません。そういったとき、差別について知っていればまちがった行動にはならないはずです。差別について今一度考え、今まで学習したことを卒業しても絶対に忘れないようにしてください。

私は豊中人権文化まちづくり協会で部落差別の問題や外国人への差別、障害を持った人への差別など、社会にあるいろんな差別やはみごの問題などを自分達で勉強したりたくさんの人たちに伝えるという仕事をしています。

私は中学生の時、自分自身も差別されるかもしれないと思うようになり怖くなった時期がありました。“もしかしたらはみごにさせるのではないか、いじめにあうのではないか”と、誰にも相談できず悩んだこともありました。そうした時“自分は弱い立場にいたらいじめられるのではないか”と考えるようになってしまい、強いポジションにこだわる時期もありました。とても卑怯なやり方だったと思いますし、そういうやり方でしか自分を守れなかったことを今でも後悔しています。

まちづくり協会の仕事を通してはみごのない町をつくる取り組みを進めている中で、今では色んな人との関わるようになりました。そうした中で、はみごはあかん！差別はあかん！と改めて思うようになりました。

人権フェスタひまわりの時、みなさんは夢バトンをしっかり握ってくれているなと感じました。

みなさんは今、自分らしく生きていますか？人といきあうことができていますか？いきあうということは、自分のことも、そして他の人の事もちゃんと知っていく必要があります。私はこれまでに、どうしても自分らしくいきあうということができにくいと感じ、自分のやりたいことができなかったり、付き合うことができなかったりするということがありました。人と接するときに「あの人、私のことどう思っているのかな？」などと知らず知らずのうちに人との関係を切るようになったこともありました。しかし、今では自分のことをわかってもらうということをはじめていき、やっと、少しずつですが友達や仲間が増えていきました。

人間が一生に出会える数には限りがある。
いつどんな人とどんな出会いをするかは分からない。それを呼び込むのは自分。
自分が“どんな出会いをしたいか”にかかっている。

これからもたくさんの良い出会いをしていきたいと思っています。

～ここからは感想文です～

◆私は今まで部落について考える事が全然なくて今回の話を聞いて「世の中にはこんなにたくさん差別されてしまうことがあるんだな」と思いました。私的には、住んでいる場所というのは特にこだわらなくても良いのだと感じています。部落に住んでいたとしても実際にその人がどんな人なのか、どんな考えをしているかどうかなんて話してみないと分からないと思います。一番大切なのは、中身だと思います。たとえばどんなところに住んでいたとしても性格や考え方まで良くないとは決して限らないからです。私は今まで住んで

いるところで差別された事はありません。なので部落差別されている方と全く同じ気持ちになるのはとても難しいです。でも、自分なりにその人の事を考えて対応を変えることはいくらでも可能です。周りの人の意見に流されず、自分で考えるという思考を大切にしていきたいです。差別が少しでもなくなるよう、私も出来る限りの努力をしていこうと思っています。

◆今回は主に「部落差別」について学びましたが、世の中には他にもたくさんの差別があり、そのことについても一人一人が考えていかなければならないと思いました。偏見や軽い気持ちで告げた言葉で人を一生苦しめることがあるという事はすごく怖いことだと思います。でも逆に自分ひとりの行動で人を勇気づけたり、未来を切り開く事ができるんだと考えると、私たちの行動や言葉にどれだけの力があるかが分かりました。聞き取り学習で２人の男女の話を聞きました。わりと最近の話だったので、こわいと思いました。自分はどうも思っていなくても親や先生などの意見を聞いて思い込んでしまう人が多いのではないかと思います。それをなくすために小さい時から差別で未来をうばわれた人や、その辛さについて伝え少しずつでもなくしていかなければならないと思いました。五中では人権の授業がとても多いのでそれらをいかし、周りにも伝えていきたいと思うし、心掛けていきたいと思います。

◆今日の話を聞いて一番強く思った事はやはり、無知は怖いなということです。結婚の差別の例にもあったように部落差別について何の知識もないまま間違った情報を教えられたら多分それらが全て正しいと思ってしまい、自分もまた他人に間違った情報を教えてしまうという連鎖が起こるけど、少しでも知識があったら、どちらの情報が正しいかを判断することができるので今日の話を聞けてとてもよかったです。差別を無くそうというのはとても難しいことだけど、自分ができることとしてこれから出会う人の中で部落差別について間違った知識を持っている人に「それは違う」と言えるようになりたいです。

◆この聞き取り学習をする前に読んだ「ゆきの選択」という読み物を読んだ時、正直もっと田舎の場所で部落の人に出会うこともないだろうと思っていました。でも、この私が住んでいる町が部落だと聞いてすごく現実だしおどろきました。私は部落の授業をするから差別がなくならないんじゃないかと思っていました。でも、結婚差別の話を聞いて知らないことはすごく怖い事だなと思いました。学んでおく事はすごく大切なことだと思いました。「生き合う」って良い言葉だなと思いました。やっぱり自分も強い立場でいたいと思ってしまうし、すごく口が悪いなと自分でも思います。対等に向き合えてなかったと思うし、もっと自分の事も相手のことも知りたいと思えました。私は友達や恋人が部落だとしっても絶対に差別をしたくないです。

◆今回聞き取りを終えて今までは、ただただ差別はダメとかなんとなくいけないと思っていました。部落に住んでいるだけで差別をされるのはおかしいとは思っていたけれども、自分がどうしていくとかは全然考えられていませんでした。なので、これからはまず、差別が行われた背景や、差別されている人、又差別している人がなぜしているなどを知って自分なりの考えや答えを出したいと思います。いつどこで自分が差別に関わるかは分からない。けれどもいつかは関わると思うのでずっと心にとめておきたいです。高校や大学に進んだらもう学校で考える機会はないと思うけれども、差別の問題に関わっている人の話はたくさん聞きたいです。中学生活残り少ないけれどやり残したことのないように１日１日大切に過していこうと思います。

◆僕は差別の事をなにも知りません。だからなぜそんなことをするのか。そんなものがあるのか不思議に思います。今日この話を聞いて自分がどれほど無知なのか偏った意見を信じるのがどれほど恐ろしいのかを知りました。そしてやっぱり差別する人も無知なんだろうなと思いました。酒井さんのお話で出てきた彼は本当に後悔してないのか正しかったと言えるのか、その人の話を聞いてみたいと思いました。自分は差別する事は絶対にいけないことだと思うし差別する人がいなくなる事を願います。

◆私は「部落差別」と聞いて最初パッとしなかったし、詳しいことなんて全然分からなかった。何か人権的なものなんだろうなと思っていました。酒井さんの話で出た結婚の話の中の「彼」みたいに「それが何？」ってなっていたと思う。でも、今日の事や「ゆきの選択」を通して何でそこに住んだ、生まれただけでそんな扱いを受けなければならないのだろうと思った。偏見っていうのができてしまったせいでそうなっただけで偏見ができなかったら誰も苦しまずに結婚したい人と結婚できて就きたい仕事に就けたのじゃないかと思った。私は周りの誰かが「部落差別のある所出身なんだ」って言われて「それが何？」と返してしまう。でもその自分が言った言葉は、知らなかったから、分からなかったから、で言ったのではなく、環境で人を決めるんじゃなくてその人の中身で決めるんだっていう気持ちで、それを含めてもその人ともっと一緒にいたいという気持ちで言えると思う。

◆私は今日の話を聞いて差別をなくすためには私たちが正しい知識を持ってしっかりと自分で考えることが大切だと思いました。そして誰も差別することなく「自分が部落出身」と話しても大丈夫だと思ってもらえるような環境づくりが必要だなと思いました。また、差別をしている大人の言うことをそのまま信じて正しい知識を学ぶ機会があっても聞かないことは怖い事だなと思いました。私は小･中学校の人権学習で部落差別などについて学んで来ましたが、今日の話を聞いて「知る」という事がとても大切だと分かりました。こうして学校で人権学習をして話を聞くことができる機会をもつことができてよかったなと思いました。